

平成15年度 離職者向け短期職業訓練(介護サービス科) 訪問介護員(2級)養成研修事業の実施について

京都府府民労働部能力開発課の依頼により、京都府立福知山高等技術専門校の委託事業で、京都府北部のハローワークに於ける求職者に2級訪問介護員(ホームヘルパー)の研修を実施する

生活福祉科介護福祉専攻

村 岡 洋 子

京都短期大学でのこの講座も2年目に入りました。

昨年の第1回の講座は、通常のヘルパー2級の養成研修(130時間)に施設実習56時間と講義14時間を加えて200時間で行いました。従って講座の実習時間は85時間というハードで充実した内容となりました。

今年は、さらに「後期実習型訓練」として、100時間の施設実習をこれに加え、300時間という長期間の研修を実施することになりました。

事業の概要は以下の通りです。

実施期間： 座学型訓練 平成15年7月31日～9月18日(200時間)

実習型訓練 平成15年9月22日～10月15日(100時間)

対 象 者： 府北部の職業紹介所に求職に訪れている離職者のうちの希望者 28名

事業内容： 座学型訓練—200時間……〔訪問介護員2級養成講座+講義7時間+介護技術に関する演習(記録の書き方)5時間+反省会(バズセッション方式)2時間+施設実習56時間〕(昨年の講座内容と同じ)

実習型訓練—100時間 引き続き、施設実習を継続する。

実施場所：京都短期大学(教室、介護・入浴実習室)及び近在の老人福祉施設

この研修は、訪問介護員の資格取得だけが目的ではなく、介護職員としての即戦力をつけ、就業を果たすための研修という位置づけで実施されるものです。

前回の70時間に、さらに100時間を加えた長期研修を高齢者福祉施設にお願いするのは、前回にも増して困難を極めました。各施設のご好意とご協力により、何とか実施することが出来ました。

受講生の方は、昨年同様、きわめて熱心に参加していただきました。この研修の目標、位置づけについては、募集段階で職業紹介所から、十分に説明され、前期・後期を連続して受講することを了解した上での参加のはずでしたが、しかし、約1ヶ月の長期にわたる施設実習に関して、なぜ施設実習14時間で資格が取れるはずの訪問介護員養成講座で、これほどの長期実

習を受けなければならないのか、という疑問を感じた方も多く、後期の実習型訓練を受けるのを拒否したいという受講生が何名か出てきました。

受講登録の際の説明が十分ではなかったためと考えられるので、京都府の府民労働部能力開発課と府立福知山高等技術専門校の方に来ていただき、話し合いを持ちました。

訪問介護員の資格を取ることだけが目的である場合は、義務付けられている 130 時間の研修ですむのですが、それでは、ほとんど就業には結びつかず、介護職としての即戦力としてこれだけの研修が必要と計画された研修です。私としては、むしろ、これだけの学習の機会に恵まれることは貴重なチャンスであると考えていただきたいたいという思いがしていました。介護の仕事はわれわれの学校の学生でも 450 時間の施設実習を課しており、それでも、決して十分とはいえません。介護の仕事は、直接高齢者の生活の質を左右するきわめて厳しく大切な仕事です。しかし自分だけの力で、高齢者施設でこれだけの実習をさせていただくことは、まず、不可能だと考えるので、その機会を貴重なものと考えていただくほうがよいのではないのでしょうか。問題は、この研修を受けたことが本当に就業に繋がるかであり、それはむしろ企画した京都府と、ハローワークの評価と広報の仕方にかかってくると思われます。

このような話し合いの結果、8 人の方が後期研修を辞退され、残りの 20 人の方には、全過程を修了していただくことが出来ました。

2 年間 2 度にわたる研修を終えて、介護の仕事とは何か、介護に関る人材には、どのような資格や研修が必要なのかを改めて考えさせられました。介護保険が実施されても、いえ、実施されてからなおさら、介護の人材に対する条件は厳しくなるばかりです。

訪問介護員は、ボランティア精神と、暇なときのお小遣い稼ぎ程度の働き方で、働く中での必須の条件である研修のプログラムもはっきりとは決まっていない登録ヘルパーがふえるばかりです。また施設における介護職員も、経費節約のため非常勤が増え人数も一向に増加されず、身分も保証されないまま、日本の介護施設における最大の課題である慢性の人手不足は一向に解消されていません。さらにこの研修で、施設実習を 170 時間に増やした研修の方針は、介護者の質の向上という意味では評価できますが、訪問介護員を施設の介護職に雇用することは、本来の介護職の仕事の分担という意味では、疑問を禁じ得ません。

すべての研修の過程を終えた研修生の方からは、やはり、参加してよかった、これだけの実習をやってみて、初めて介護の一端に触れたおもいがする、という感想を頂き、その点ではやはり、地域のかたがたのお役に立つことが出来たのでは、と救われた思いがしました。研修生の方々の御健闘を祈ります。また全過程において、申請のための書類作りのご指導をいただいた桐村ますみ・仁科倫子さん、実務および研修生や施設殿との連絡、実習中の巡回まで、研修事業のほとんどを取り仕切っていただいた安部康雄さん、さまざまなご協力をいただいた事務長の服部先生、柏原先生、事務職の小西恵子さん、勝田晃代さんにも厚く御礼を申し上げます。